

【鳥取県】土地改良を契機とした農村地域の振興事例集

市町村	地区名等	タイトル	頁	発行月	Vol.
倉吉市	久米ヶ原	ハウス栽培の導入と「倉吉スイカ」のブランド形成	1	H30.03	4
西伯郡大山町	中山・名和	畑地かんがいシステムの導入により、効率的なかん水を実現	2	H31.03	5
鳥取市	福部	農業用水の安定供給がもたらす「砂丘らっきょう」販売額の向上	3	R元.12	6
琴浦町	松谷第1ため池	ため池の防災工事により下流の被害を防止	4	R4.03	8
米子市	稲吉	事業フル活用で儲かる農業を実現！新甘泉でがつつり所得向上	5	R6.03	10
鳥取市	河内	未整備田の区画整理による地域ブランド作物の産地拡大	6	R7.04	11

ハウス栽培の導入と「倉吉スイカ」のブランド形成

くらし
【鳥取県倉吉市】

体制・人材
づくり
栽培作物
・方法
加工・出荷
販売

【工夫のポイント】

- 地域で従来から生産されていたスイカの収益性向上に向け、**末端かんがい施設の整備と併せ、ハウス栽培を導入。市場への長期間出荷を可能とし、ブランド力を強化。**
- JA等の施設(スイカ統合選果場等)では、糖度センサー等により高品質なスイカを市場に出荷することで、**質・量ともにブランド化を推進。**

基盤

末端かんがい施設の整備によるハウス導入

- 戦後の基盤整備(畑地かんがい施設の整備)により、露地野菜を中心とした営農体系を確立。
- さらに、近年においては、末端かんがい施設の整備により、**ハウス栽培に適したかん水が行えるようになり、スイカなどの品質・収量の向上が実現したほか、自動かん水設備により、更なる作業の省力化が図られた。**



基盤整備

(H9年～14年)
(H26年～27年)

【整備前】

- 戦後整備された**農業用水利施設の老朽化**が進むことで、**安定的な用水供給に支障が生じ、収量・品質が不安定**となっていた。
- 露地中心の営農形態確立以降も、**市場ニーズに対応した営農に向け、ハウス栽培の導入**を目指していた。



【取組地域の概要】

○位置
鳥取県倉吉市



鳥取県

くめがはら
久米ヶ原地区

- 主要作物
・スイカ、ネギ、キャベツ等
- 主な支援施策
・県営かんがい排水事業(S40～55)
・県営ほ場整備事業(S41～51)
・多面的機能支払交付金(H21～)
・県営畑地帯総合整備事業(H9～14)
・県営農村地域防災減災事業(H21～)
・団体営農業水利施設保全合理化事業(H26～27)
・県営農業水利施設保全合理化事業(H27～29)

生産現場

市場ニーズに応えるハウス栽培の導入

- 倉吉スイカはスイカを台木にする手間暇かけた独特の栽培方法から、糖度が極めて高く市場でも高い評価を得ている。
- ハウス栽培を導入することによって**夏以降の出荷数が少なくなる時期をねらって栽培・出荷することが可能**となり、市場からの評価が向上。



加工・流通

生産物の検査による高品質な商品の流通



- スイカの統合選果場において、**空洞判定機や糖度センサーの機能向上(JA鳥取中央)を行い、高品質な生産物の出荷を確保。**

担い手

関係機関の連携による地域の担い手育成



- 行政や農業関係機関が連携し、**経営改善等を学ぶ研修会等を開催。担い手となる農家14人(うち認定農業者10人)を育成。**

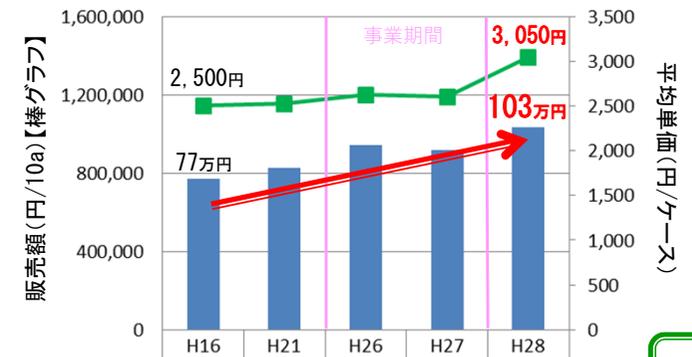
ブランド種の生産体制構築によるスイカの販売額及び販売単価の向上

- 品質向上・収量の増加により、「倉吉スイカ」の**平均単価及び単位面積当たりのスイカの販売額が向上。**



【スイカの販売額等の推移】

販売額が約1.3倍、平均単価が約1.2倍



【工夫のポイント】

- 畑地かんがい施設等の整備により、生産性及び作物品質が向上。
- GAPの推進及びコールドチェーンを導入し、高付加価値化を実現。
- 地元の若手担い手団体が、新規就農者の受け皿として機能。

【取組地域の概要】

- **位置** さいはぐんだいせんちょう
鳥取県西伯郡大山町(過疎、山村)



- **主要作物**
・ブロッコリー、梨、白ねぎ等
- **主な支援施策**
 - ・大山山麓総合農地開発事業 (S49~H14)
 - ・経営体育成基盤整備事業 (S48~H元)
 - ・畑地帯総合整備事業
(中山1期H6~H19) (名和1期H8~H20)
(中山2期H19~H32) (名和2期H21~H32)
(中山3期H24~H33) (名和3期H25~H32)

基盤

畑地かんがいシステムによる水利用の合理化

- 畑地かんがい施設の整備により、畑地・樹園地を高機能化し、高収益作物の生産を拡大。
- 畑かん整備により、かん水・防除に係る従来の水汲み作業が大幅に省力化され、担い手の経営規模拡大及び細やかな用水供給による品質向上に寄与。



基盤整備

(H6年~H30年)

【整備前】

- 天水に依存した営農で、安定生産や高収益作物等の経営拡大に支障が生じている。
- 用水は水源からの水汲み運搬・手撒き散水に限られ、重労働かつ低効率。



生産現場

地区全体でGAPに取り組み、危機管理を見える化

- 地区全体でGAPに取り組み、より安全性の高い方法を選択して農作業を実践。
- 平成30年12月、地理的表示(GI)保護制度登録。



加工・流通

真空予冷方式で新鮮ブロッコリーを提供

- 温度管理が重要なブロッコリーを集荷所で真空予冷急速冷却することで、市場まで保冷車を用いて冷蔵状態を保つコールドチェーンを確立。



担い手

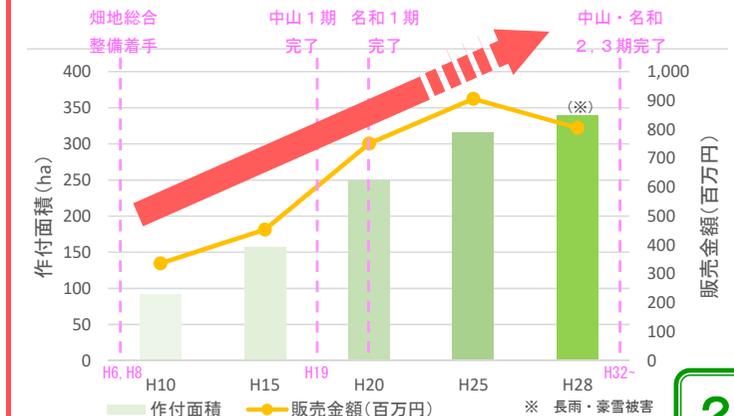
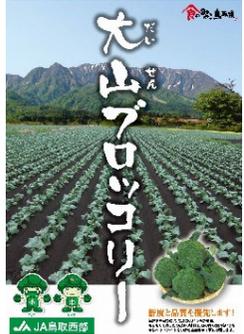
若手農業者集団が新規就農者の受け皿に

- 平均年齢27歳の若手農業者集団が、高収益農業に取り組む。
- 県が補助する「アグリスタート支援事業」卒業生等、新規就農者の受け皿に。



「大山ブロッコリー」のブランド化により一大産地化

- 安定したかんがいにより、単収増・高品質化を実現。
- 「大山ブロッコリー」としてブランド化し、西日本随一の産地に成長。
- 継続的な整備により、販売金額・作付面積が拡大。



【工夫のポイント】

- **生産基盤の整備**により収量・品質を安定化させ、「砂丘らっきょう」の**イメージ向上とブランド力を強化**。
- 「**福部砂丘らっきょう10億円達成プラン**」を策定し、高品質作物の安定供給に向けた施設整備等、多方面の取組を積極的に展開。
- 地域一体となって営農に取組み、生産組合による**規格・品質の統一化**や**農福連携による作業委託**を実施。

【取組地域の概要】

○位置
鳥取県 鳥取市福部町



鳥取県
鳥取市福部町

- 主要作物
らっきょう
農家戸数：65戸、栽培面積114ha)

- 主な支援施策
- ・ほ場整備(S40～S44)
 - ・農業構造改善事業(S41～S45)
 - ・県営かんがい排水事業(S45～S52)
 - ・県営特定農業用管水路等特別対策事業(H24～H30)



基盤

適切な水利用により収量・品質が安定化

- 農業用管水路の更新により、**漏水事故が減少し、安定的な水利用**と適切な用水管理により**収量・品質が高いレベルで安定**した。
- 管水路の改修が完了した平成30年度には、**漏水事故がゼロ**となり、維持管理の**負担が大きく軽減**され、健康被害への不安も解消された。



基盤整備 (H24年～H30年)

【整備前】

農業用管水路は、整備後40年以上が経過しており、老朽化により**破損や漏水事故が頻発**し、適切な水利用が行えず**収量が不安定**であった。

維持管理に年間約100万円を要し、**石綿が含有された管水路**の改修作業に対し、**健康被害を不安視**する声もあり、早急な対策が求められていた。



生産現場

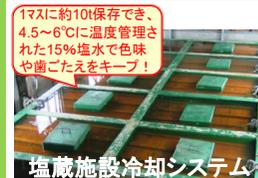
「砂丘らっきょう」ブランドの確立で高付加価値化



- 甘酢漬けを「砂丘らっきょう」として**商標登録、ブランド化**。
- 平成28年に「鳥取砂丘/ふくべ砂丘らっきょう」として県内初の**GI(地理的表示)登録**。

加工・流通

高品質作物の安定供給に向けた施設整備



- らっきょうの長期保存を目的に**塩蔵施設冷却システム**を導入し安定供給と周年出荷を実現。
- 産地パワーアップ事業(H29)により加工品用の包装機械を整備。

担い手

地域一体の営農取組(生産組合、農福連携)

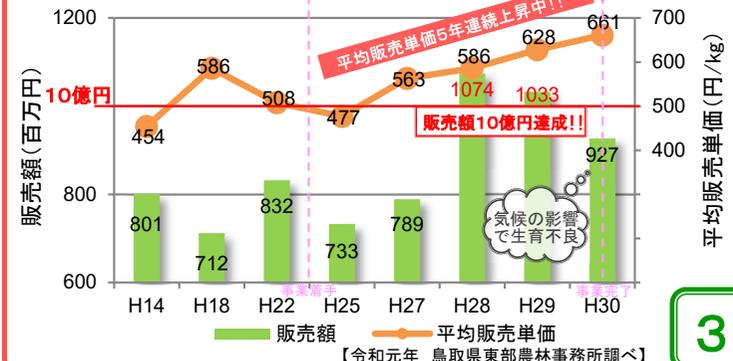


- **福部らっきょう生産組合**を設立し、**規格・品質を高水準で統一**。
- H22から**農福連携**に取り組み、短期集中的に人手を要する植付けや収穫後の根切り等を**9つの福祉法人等が受託**。

【実施例】5月下旬～6月中旬の根切り作業
1事業所あたり 約6人×5時間×18日

一大産地として更なる販売額の向上を目指す

- 適切な水利用により**収量・品質が安定**し、多様な高付加価値化と相まって**販売額、平均販売単価が上昇**。
- 平成28、29年度は目標である**販売額10億円**を達成。
- 更なる販売額の向上に向け**多様な商品を開発**し、**加工品としてのGI登録**にも意欲的に取り組んでいる。



【対策のポイント】

- 本ため池は、**パイピングによる漏水**が見られるほか、**耐震性能不足**により、豪雨時及び地震時に、決壊の危険があり、下流住宅に浸水被害が生じるおそれ。
- このため、3か年緊急対策において、**堤体改修工事**を実施。
- 改修工事後、**令和3年7月豪雨による被害を回避**。

【取組地域の概要】

- 位置 ことuraちよう
鳥取県琴浦町

鳥取県

まつたにだいいちためいけ
松谷第1ため池



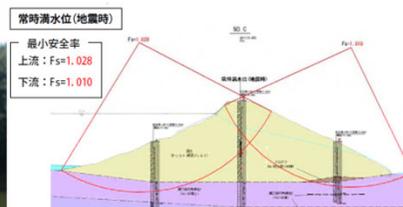
- 主要作物
・水稲

事業名	事業費	対策期間
農山漁村地域整備交付金	2億8,300万円	H29～R2
うち3か年緊急対策	1億7,200万円	H30～R2

ため池の防災工事を実施

- 3か年緊急対策において、**堤体改修工事**を実施。

対策前



耐震性の不足



堤体下流法尻漏水: 124 ㍓/分・100m

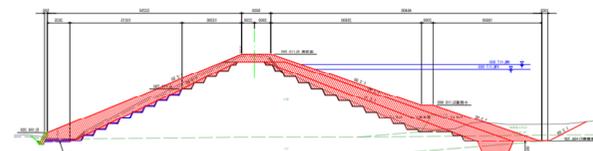
防災工事

(H29～R2)

対策後



築堤による耐震性確保



前刃金工法による遮水性ゾーンの形成

堤体の決壊を防止し、下流の被害を回避

- 従前確認された漏水は防災工事により解消。
- **24時間雨量331mm**を記録した令和3年7月豪雨においてもため池に被害はなし。
- **下流の農地や住宅の安全・安心を確保**。

対策の
効果

想定される被害

	想定被害額	影響を受ける住宅
対策前 (決壊した場合)	6億3,800万円	22戸
対策後	被害なし	被害なし



【工夫のポイント】

- **かん水施設整備と併せて、高収益品種・新技術導入の支援**を実施。作業の省力化・効率化、品質向上を図る。
- **基盤整備により省力化等**が図られたことで、新規担い手の呼び込みと**栽培規模拡大**を実現。

基盤

営農作業の効率化

- さがりかや下蚊屋ダムや幹線水路の整備、未墾地の農地造成 (S47~H14)。
- 果樹育成に必要な**かん水施設及び農業用排水施設**を整備 (R2~R4)。
- **ジョイント仕立て・網掛け施設・果樹棚**の整備 (R3~R4)。
- 高収益品種の**苗木導入** (R2~R4)。



ジョイント栽培



かん水施設の整備



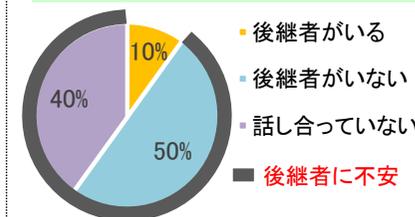
網掛け施設

基盤整備
(S47年~H14年)
(R2年~R4年)

【整備前】

かん水施設を有しておらず、営農に**十分な条件が整っていない**状況。
また、**高齢化等による**経営継承に9割の農家が不安を抱き、果樹団地の廃園化を懸念。

後継者について(基盤整備前に実施したアンケート結果)



整備前の休耕園

【取組地域の概要】

- 位置 よなごし 鳥取県米子市



- 主要作物
・梨(新甘泉、王秋、夏さやか等)
- 主な支援施策
・国営総合農地開発事業 大山山麓地区 (S47~H14)
・農地耕作条件改善事業 (R2~R4)

生産現場

高収益品種・新技術の導入

- 「二十世紀梨」より**高収益品種である「新甘泉」**を主に栽培。
- **ジョイント仕立て**により**作業の省力化・効率化**。
- **網掛け施設により無袋栽培**を実施予定。
- 収穫時期が異なる品種を組み合わせることにより、**作期を分散**。



農作業労働時間の削減

- **かん水施設**の設置や、**ジョイント・網掛け栽培**を行うことで、**労働時間を大幅に削減**。
- **基盤整地**やジョイント仕立てにより、**スピードスプレーヤーによる防除作業の効率化**や均一化、**ロボモアの導入による除草の省力化**を実現。

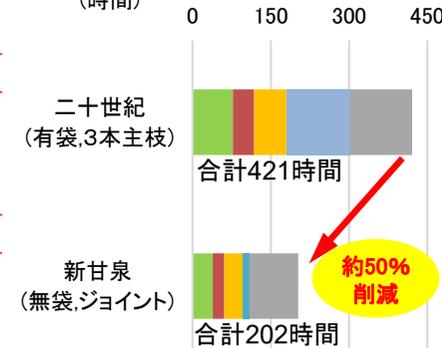


スピードスプレーヤー



ロボモア

作業時間の削減(10a当たり)
(時間)



- 整枝・剪定
- 受粉
- 摘花・摘果
- 袋掛け
- 網掛け・網収納
- その他

担い手

新規就農者、退職前就農者の確保

- **梨栽培の現状や後継者確保について検討し、梨農家以外も含めて**今後の梨栽培について話し合いを実施。
- 新規就農者1名、退職前就農者2名を含む8名が入植。

かん水施設の設置による品質向上

- **かん水施設**を設置することにより、果樹の**収量や品質が向上**。



▶ 様々な取組により省力化・効率化を図ることで規模拡大を実現し、地域全体の所得を大幅に向上。

【工夫のポイント】

- 基盤整備による営農作業の**効率化、省力化**で生まれた余剰労力により、**高収益作物の拡大、新規導入**を実現。
- 農事組合法人へ移行し、**農地集積の推進**により生産性を向上。
- **女性が活躍する場の創出**など、多様な人材の参画により**地域農業の維持・発展**に繋がっている。

【取組地域の概要】

○位置 とうち
鳥取県鳥取市河内



- 主要作物
・水稲、サトイモ、アスパラガス、落花生
- 主な支援施策
・県営農業競争力強化農地整備事業 (H29～R2)

基盤整備による営農作業の効率化、省力化

- 区画の整形や道路の整備等により営農作業の効率が向上。
- ほ場法面の管理省力化対策として**センチピードグラスによる法面緑化**を実施し、除草作業が1/3に軽減。



基盤整備

(H29年～R2年)

【整備前】

区画整理が未実施であり、農家の高齢化、後継者不足、耕作放棄地の発生等が大きな課題。



基盤

新規作物の導入による経営の安定化

- 地域で**ブランド化を進めるアスパラガス栽培**に新たに取り組み、産地拡大並びに農業経営の安定化を図る。
- 収穫、出荷調整は**集落内の女性が中心**となって行い、近隣集落からの雇い入れによる新たな雇用も創出。



収穫状況

生産現場

地域一体となった組織体制づくり

- 担い手農家が**法人格を取得**し、経営責任の自覚と組織の信用力を向上。
- 組織の理事、組合員に**積極的な女性参画**(理事1名、組合員3名)を図り、多様な意見を取り入れられる組織体制を整備。

担い手

事業を契機とした地域コミュニティづくり

- **田んぼダムの取組**により流域治水対策に寄与。防災教育の一環で地域児童が堰板を作成。
- **婦人会による特産市の復活**や地域児童を対象とした**体験学習畑**に取り組むなど地域が活性化。



体験学習畑

地域の取組

高収益作物導入・拡大による法人所得の向上

- 営農効率の向上によりサトイモの作付面積を拡大。**地元学校給食の食材供給地**として安全・安心な食材の安定供給を実現。
- 軽量品目で収穫作業の負担が少ないアスパラガスの新規導入によりさらに**作物生産額が向上**。法人所得の向上や経営の安定化に寄与。



整備後の高収益作物の作付面積・販売額の推移

